

葛川小中学校だより

葛川小・中学校 学校だより 令和元年 増刊号 在籍児童・生徒数 40名 12月23日発行

★臨時増刊号★

11月1日（金）に、近畿各地から（遠くは静岡県から）約120名の参加者をお迎えし、「第34回近畿へき地教育研究大会滋賀大会」が本校で開催されました。本校の研究主題は「主体的に学び合い、未来の創り手となる子どもの育成～ふるさとで心豊かに学ぶための小中一貫した教育をめざして～」です。本校が日常的に取り組んでいる「KCLプロジェクト」の活動を紹介し、参加者の皆様からご意見やご感想をいただきました。「子ども達にも是非伝えてほしい」という声が多く寄せられましたので、臨時増刊号として、この紙面にてお知らせします。児童・生徒の皆さんは、自分たちの活動に一層自信と誇りを持ち、今後の活動を続けてほしいと思います。

コメント

- それぞれの発達段階に応じた活動が行われており、子どもたちが生き生きと積極的に学びに向かっていたのがすばらしいと思いました。
- 中2・3年生を参観しました。それぞれ自分たちの地域のことを思う姿を感じました。ぜひ継続・発展・継承してほしいと思います。
- KCLを合い言葉にそれぞれの学年で工夫をこらした取組をされていると思いました。中3生の中で、「なぜやらなければならないのか」から「地域に必要とされる、認められる」という思いに変化したと発言していました。大変すばらしいと思いました。
- 中1の生徒達と先生とのやりとりが活発で良かったです。子どもたちの表情が生き生きとしてとても魅力的な授業をみせていただきました。

KCLプロジェクトの発表会

研究発表大会特集

■子どもたちの心温まるお迎えがとても良かったです。生き生きとパネルの説明をする姿や商品をすすめる姿、ガチャに誘導し自分たちの思いを自分たちの言葉で伝えようとする姿に、これまでの取組がいかに充実していたかを感じることができました。



■発達段階にあわせ系統だった研究を重ねられての授業だったと思います。まさに「未来の創り手となる」に迫る学習内容が設定され、授業のデザインにより、めあてに向かう学習展開につながられていたと感じました。

■朝着いたと同時に子どもたちの明るいあいさつ、プレゼンに出会えたのが良かったです。授業の中で紙芝居、パンフレット、エンピツキーホルダー作りにおいて生き生きと自信を持って発表していたのが印象に残りました。



■ 5年生の発表、6年生の話し合い、プロセスがよくわかったので参観できてよかったです。

■ 小中で一貫した総合的な学習の時間の様子が生き活きと展開されていました。私の地域の高校生が行っているプレゼン・企画力が中学生の中に見られ、感心しました。

■ 小学校から中学校の各学年まで一貫した KCL プロジェクトの指導計画は参考になります。全ての授業を見て、児童生徒の育ちや成長を感じました。



■ 小5では、参加者に自分たちの取組をプレゼンし意見をもらうという、なかなかハードルの高い課題を立派にやり切っていたのが感心しました。

■ へき地の課題に子どもたちがいかに課題意識をもって取り組んできたかがわかる発表でした。どの学年も自分のフィルターを通して地域を知り、アントレプレナーシップを育成し、活動していることが表現されていて感動しました。特に中3の生徒の言葉は本物で、大人の心を動かすほど素晴らしいものであり積み上げを感じました。



■ 人数的な力が想像以上でした。各学年、全体と日程の前・中まで随所に見られ感動しました。個が困った場面で自然に周囲に、そして周囲から助け合う姿が集団力、所属意識の高さを感じました。

■ 中学生が進行を努め、全員が大勢の部外者の前で堂々と発表できていました。中学生のしっかりした態度が小学生の児童にいい手本となり引き継がれていくと思います。

■ 児童生徒が話し合い活動で主体的に地域のことを知り、地域のことを考える様子がよく伝わりました。



■ 一人一人が自信を持って、そして地域に誇りを持って発表していたと思います。

■ 発表はわかりやすくすばらしかったです。発表を聞いて小学1年生から中学3年生まで取り組んでいる KCL プロジェクトがつながりました。ありがとうございました。



■ KCL プロジェクトに関する協議が深まりたいへん良かったと感じました。アントレプレナーシップの育成について、土台がつけられ、つなげる会を発足し、まさに希望を実現していく取組はへき地教育にとって大きな道しるべといえると思うので、本日参加できて本当にありがたかったです。

■ 待ち時間中に子どもたちがコーナーを開いてプレゼンされていましたが、とても良かったです。どのコーナーの子どもたちもしっかりと話し、こちらの質問にも的確に答えてくれました。しっかりとコミュニケーションをとれる子どもたちに育っているなあ、と思いました。

